

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 教授

氏名 石井康夫

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学部1年生また動物応用科学科2年生の英語教育 獣医学研究科MAの英語教育と動物文化史・動物倫理に関する教育担当をその範囲とし、授業における各科目の教育内容を実践することを活動とする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
英作文表現	獣医学科	必修	1	70
英作文表現Ⅰ	動物応用科学科	必修	1	70
獣医看護実践英語	獣医保健看護学科	必修	1	78
英作文表現Ⅱ	動物応用科学科	必修	2	90
動物文化史特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	4
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	1
卒業論文	獣医学科	必修	6	9
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	1
総合英語	獣医学科	選択	2	70
英語講読Ⅱ	動物応用科学科	必修	2	90
基礎科学英語	獣医学科	必修	1	27
基礎科学英語	動物応用科学科	必修	1	27
基礎科学英語	獣医保健看護学科	必修	1	78
世界文化史	動物応用科学科	選択	1	70
英語特別演習	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	29

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

各科目の教育目標・到達目標に向かい、学生の学力・能力を伸ばす。学生にとって学びの「意義」を明確に見出すこと、また到達に向かうように着実な努力に向かうよう指導することをその務めと考える。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

・重要視していること：履修者の顔・表情を見ること。わからない、早すぎる、ついていけない、おもしろくない、という気持ちは学生の表情にでる。これを見過ごさないようにすることが大事。うなずいているから満足できているわけでもない。授業時の履修者の姿勢について授業進行時に確認をすることは重要視することだ。

・次に重要視することは、言葉での説明。評価のこと、内容、すべてが説明に拠る。履修者は聞いていない者、関心をよせない者が多くいる。履修者に理解させるには、何よりも資料自体の書かれた言葉と、授業時の教員の肉声である。説明をいかに丁寧に、わかりやすく「伝える」か、ということ重要視している。

・教育の目標と目的は、前掲のとおり、各科目への到達教育目標に含まれている。英語については、「身につける」「記憶に残る」「理解する」ことが最も重要である。語学においては実践性が必要であり、修得の目的でもあるのだから「表現が使える」「読解で内容を理解する」「自分の見解を英語で述べる」ことが目標となる。

・特徴：教育の特徴として、これは自身の年齢・加齢により変化してきたことだが、のんびりと余裕をもった教育・講義をすること。履修者にある程度「楽しんで」もらうこと。これを重要視している。笑いの要素を資料に含める。これらは授業と内容に円滑に入り込んでいくためのひとつの方法論である。

・新たに学習した内容については、先述のとおり「残ること」を重要視している。特に人間形成を踏まえた倫理観・道徳観を涵養するためにも、学んだ内容が卒業後に活かせるよう、「自分の見解」をしっかり認識してもらうような授業づくりをこころがけている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

英語グループ学習の実践、また課題に対応した明確なフィードバックの提示からさらにディスカッションを導く。

(2) ICTの教育活用

無

ICT活用は導入していない。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

特に英語の授業においては、各学科の授業内容は、各学科にとって必要と思われる内容を資料に盛り込んでいる。そのため獣医学科、動物応用科学科、獣医保健看護学科の学生は英語とその資料を通じて知識を修得できるようにしている。これは学生も関心と意欲を大いに寄せる機動力になっている。

(2) 学生の理解度の把握

A

中間試験や課題とその説明、添削を通じて学生がどの程度授業内容を理解しているかを把握するようにしている。ほとんどの科目では毎回提出物がある。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

毎回の課題提出の義務、また宿題も出しているので自学の習慣を身に着けるように指導している。また辞書を用いた語法学習を促し、最近の辞書離れによる学習不足を補うようにしている。資料と並び英語辞書の活用が自学自習において最も重要であると指導している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

質問はメールが多いが、適宜対応、また答案返却とそのときの解説も一人一人に実施している。

(5) 双方向授業への工夫

A

大学院授業などでは、院生に対して頻繁に質疑応答を行い、問題についての見解を述べあうようにしている。表現Ⅱではグループ内での表現ワーキングを実施、教員と学生、学生同士の考え方や表現の違いを共有するようにしている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

次年度あるいは前期後期の変わり目において、アンケート内容にある改善点を反映させるようにしている。特に進度が早いなどの項目は注意している。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

時間内での授業内容の消化が難しい場合があることが今後の課題。資料の充実は毎年着実に
行っているので、学生の需要を満たすようになっている。

(3) (2) を踏まえた次年度取組

より一層の資料の充実を目指す。一回分の授業での分量と、見やすさ、わかりやすさを
心掛けたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

英語教育については、語彙と語法の説明を基礎も含めた形で展開すること、また英語以外の
授業内容については、教員自身の問題への見解、批評を含めた洞察の深い内容を提示するこ
とを取り組みとしたい。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

毎回の提出物は的確にこなせるようになっている。また高い修学満足度を感じられるような
授業内容になっている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

各種FD研修には参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

授業内容の理解度を高める。学生の考えを導き出すような指導をこころがける。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

授業シラバスと授業資料がその根拠資料となる。